

公民科（公共）学習指導案

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和6年 月 日（ ） 第 時限
- 3 学 級 ○○ホームルーム（ 名）
- 4 使用教科書 『公共』（実教出版）
- 5 単元（題材）名 民主国家における基本原理

6 単元（題材）設定の理由

<生徒観>

本ホームルームは、普通科の学級である。授業内で自分の意見を記述する活動に対して積極的に取り組める生徒が多く、級友と意見交換をする活動にも意欲的に取り組んでいる。また、他者の考えに興味を示す場面も頻繁に見られる。その一方で、思想や政治への関心は全体的にやや低く、抽象的に物事を理解することが不得意な生徒が多い。特に、抽象的なテーマについての文章を読み取り要約する能力の不足や、文章の趣旨を踏まえた意見発表等の活動に対する消極的な姿勢が課題として挙げられる。

<教材観>

本単元は、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、民主主義や法の支配等の、公共的な空間における基本原理について生徒が歴史的な経緯を踏まえて考え、理解することをねらいとしている。特に、法が公正なルールであるためにはどのような特質を備えていなければならないか、また公正な社会の実現のためにはどのような政治制度が必要とされるか、といった事柄について生徒が資料をもとに主体的に考察することが求められる単元である。

<指導観>

公共的な空間における基本原理については、資料や人間本性についての考察をもとに理解されるべきであり、単純な知識伝達を中心とした指導はそぐわない。それぞれの基本原理がどのような根拠に支えられているのかについて、生徒による仮説の立案と検討の中で人権の保障や社会契約説に関する歴史的な重要資料を扱うことによって、資料を活用する力を育むとともに生徒が主体的に思考を深める機会としたい。また、単元全体において公正な法や政治とは何かを考察し発表する活動を取り入れることによって、生徒の主権者としての意識を涵養したい。

7 単元（題材）の目標

- ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、協働の利益と社会の安定性の確保を図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。
- ・民主主義や法の支配など、公共的な空間における基本原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会の関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現できる。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代社会の法制度や政治体制についての諸課題を主体的に解決しようとする。

単元を貫く問い

（単元の基軸となる問い） 民主国家の基本原理とは何であり、どのようにして実現されるのだろうか。

8 単元（題材）の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、協働の利益と社会の安定性の確保を図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。	民主主義や法の支配など、公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会の関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	よりよい社会の実現を視野に、現代社会の法制度や政治体制についての諸課題を主体的に解決しようとしている。

9 指導計画 単元名 民主国家における基本原理 全5時間

第一次 民主政治の成立と基本原理 …3時間

第1時 民主政治の成立 ……【○知、●態】

第2時 社会契約説 ……【○思、●態】（本時2／3）

第3時 民主政治の基本原理 ……【●知】

第二次 民主的な政治制度と課題 ……2時間【●知、○知、●思、○態】

（ ○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」 ）

単元の指導計画

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次	【単元を貫く問い】民主国家の基本原理とは何であり、どのようにして実現されるのだろうか。				
	【第一次の問い】近代民主政治はどのようにして成立したのだろうか。				
3時間	<p>◇民主政治の成立</p> <ul style="list-style-type: none">・単元を貫く問いを理解し、学習の見通しを立てる。 <p>問) 日常生活ではどのような意見対立があり、どのようにして解決しているか。</p> <ul style="list-style-type: none">・身の回りで起こる意見対立の例から始め、政治や公共空間の必要性を理解する。・絶対王政等、前近代ヨーロッパの政治状況についての説明を聞き、その問題点について気づく。				<div>(評価資料)：ワークシート、小テスト、MetaMoJi Classroom</div> <p>●●身近な意見対立の例や、その解決の経緯について思い出そうとしている。</p>

<p>★ 本 時 2/3</p>	<p>問) アメリカ独立宣言やフランス人権宣言等、それぞれの資料にはどのような特徴があるか。また、日本国憲法と類似している点はあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸宣言に記載された人間観と絶対王政下での政治状況を対照させて考える。 ・ 諸宣言の内容が現代の日本国憲法につながるものであることを理解する。 <p>◇社会契約説</p> <p>問) ○○町にすべての実定法が適用されなければ、自分たちはどのような生活を送ることになるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説を立て、この問いのような状況下でこそ、本当に必要な法や制度を発見できるということに気づく。 ・ ホッブズ、ロック、ルソーがそれぞれ著した社会契約に関する資料の読み取りを行い、班ごとにその内容をまとめ発表する。 ・ 資料のまとめと各班の発表を参考に、自分の当初の仮説を修正する。 <p>◇民主政治の基本原理</p> <p>問) 現代日本の政治に最も近いのは、ホッブズ、ロック、ルソーのいずれが唱えた政治体制だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間接民主制は、ロックの社会契約説によって正当化されることを確認する。 ・ ワイマール憲法を引用しつつ、20世紀以降は自由権だけでなく社会権の要求にも焦点が当たるようになってきた経緯も理解する。 <p>問) 独裁政治と、現代日本の政治との違いは何か。また、独裁政治の短所は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の支配と法の支配との違いや、法の支配の有効性を理解する。 	<p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ●アメリカ独立宣言やフランス人権宣言等の資料を読み取り、それぞれの特徴と日本国憲法とのつながりについて考察しようとしている。 ○ 基本的人権の尊重、国民主権、権力分立という近代民主政治の基本原理が確立される歴史的経緯について理解している。 ○ 社会契約説に関する資料を読み取り、その内容を適切にまとめられている。 ● ●政府や法・規範の必要性についての自らの思考を、資料や他者の意見を参考に深めようとしている。 ● ●自然権や自然法についての思想を踏まえつつ、法の支配の有効性を理解できている。
<p>第 二 次 2 時 間</p>	<p>【第二次の問い】法の支配はいかなる理論的根拠に基づいているのだろうか。</p> <p>◇民主政治のしくみと課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会契約説の振り返りを行い、政府の存在は自然権を持つ人々の同意によって正当化されることを確認する。 		<p>(評価資料)：ワークシート、小テスト</p>

<p>問) 国の在り方や法の制定にあたって、国民はどのようにして意見を反映させるべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙制度が、国民主権の原理のあらわれであることを理解させる。 <p>問) 多数決の長所と短所は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンサムの功利主義の議論を想起させる。 ・少数意見の尊重にも一定程度留意すべきであることに気づかせる。 ・権力分立の必要性について、フランス人権宣言の条文を用いつつ解説する。 <p>◇世界の主な政治制度</p> <p>問) 議院内閣制と大統領制、民主的権力集中制のいずれがより望ましいか。班ごとに調べ、議論してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治の安定性やリーダーシップ、権力分立等の観点を事前に示しておく。 ・議論の後、各班の意見を集約し、各体制の長所と短所について総括する。 ・単元の始めに立てた見通しを踏まえて、単元全体の振り返りをする。 	●	●	●	<p>●選挙制度と多数決原理について、その意義と限界を理解している。</p> <p>●民主政治の基本原則とその意義について理解しており、自分なりに説明することができる。</p>
	○	○	○	<p>○民主政治の基本原則を実現できる政治制度とはいかなる制度なのか、実際の世界の政治制度をもとに探究を深めようとしている。</p> <p>○アメリカ、イギリス、中国など各国の政治制度について基本的な知識を有している。</p>

10 本時の指導目標

- ・社会契約説に関する資料を読み取り、その内容を適切にまとめられている。
- ・国家や政府の必要性についての自らの思考をまとめ、資料や他者の意見を参考に深めようとする。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 5分	<p>【単元を貫く問い】民主国家の基本原則とは何であり、どのようにして実現されるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に扱った王権神授説の内容を確認する。 ・神の権威に拠らずに国家や政府の必要性を考察することが本時の主題であることを理解する。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・神の権威に拠らずに国家や政府の必要性を考察することが本時の主題であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主国家の基本原則を考えるためには、国家・政府の必要性そのものも疑ってみることが重要であることに気づかせる。 		

<p>展 開 20 分</p>	<p>【本時の問い】国家・政府はなぜ必要か。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての実定法が適用されず、脱出もできない〇〇町での生活はどのようなものになるか仮説を立てる。 そのような状況の〇〇町においてルールや制度を作るとすれば、何のためのどのようなものであるか仮説を立てる。 上記2つの仮説について数名が発表する。 6つの班ごとにホップズ、ロック、ルソーいずれかの文章を読み、その内容をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然状態の仮説になるよう、生徒は町外との干渉をしないこと等、条件を付加しておく。 衣食住等、想像すべき具体的事象について例示する。 机間指導の際に仮説を確認しておき、できる限り異なる意見を発表させるようにする。 読み取った内容はMetaMoJi Classroom内のノートに記入させる。 班ごとに手分けして課題にあたるよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 班員と協力して、資料の内容を適切にまとめている。【思】 	<p>MetaMoJi ClassRoom</p>
<p>展 開 20 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各班のまとめを発表・比較し、その内容を確認する。 当初の自分の仮説と最も異なっている説を挙げ、その説から「自分の仮説に取り入れたいこと」「受け入れがたいこと」を理由付きで記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> この後に自分の仮説と各班のまとめとを比較することを予告しておく。 各班のまとめの一致点と相違点について、生徒に問いかけつつ確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然状態と政府の発生についての自らの考えを、資料や他者の意見に基づいて深めようとしている。【態】 	<p>ワークシート</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホップズ、ロック、ルソーの社会契約説の内容を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 想定する自然状態のちがいで、正当とされる国家・社会像も異なってくることに気づかせる。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・自然状態を再現しがたいために、社会契約説による説明はどのバージョンにおいても絶対的に正しいとは言えないということを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会契約はあくまで想定上の出来事であることに留意する。 		
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	--	--

12 評価の目安と目標実現のための手立て

A	十分満足できる	社会契約説に関する資料を読み取り、その内容を適切にまとめられていることに加え、その内容に対する批判的な見方もできている。また、政府や法・規範の必要性についての自らの思考を、資料や他者の意見を参考に実際に深められており、さらなる探究へと向かおうとしている。
B	おおむね満足できる	社会契約説に関する資料を読み取り、その内容を適切にまとめられている。また、政府や法・規範の必要性についての自らの思考を、資料や他者の意見を参考に深めようとしている。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	教科書を使用し、各資料の基本的な内容を確認した上で読み取りとまとめを行うよう声かけを行う。また、思考を深めるための最初のステップとして、他者の意見と自分の意見とがどのような点で違うのかを問いかけ、他者の意見の良いところを発見させる。